

同窓会報

2014年(平成26年)12月15日発行

[発行] 四日市大学 同窓会事務局

〒512-8512 四日市市萱生町1200

TEL&FAX 059-365-6791

E-mail dousou@yokkaichi-u.ac.jp

地域連携は地域のためならず

四日市大学は今年度、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択されました。そこで社会連携センター長の松井真理子先生に「地(知)の拠点整備事業」についてお話を伺いました。

四日市大学社会連携センター長

松井 真理子



平成26年8月、四日市大学は、文部科学省の平成26年度「地(知)の拠点整備事業」(COC (Center of Community))

事業」と称されています。に採択されました。全国の大学等から高い関心が寄せられる中、約10倍の競争率をくぐり抜けて採択されたことを、まずは喜び合いたいと思います。

COC事業には、4つの重要な特色があります。
①地域の知の拠点として、地域に寄与する大学であることを明確に打ち出すこと、②①を進める上で、特に自治体との連携を強化すること、③地域連携を学生教育に反映させること、④この取組を通じて大学の「ガバナンス改革」を進めることです。
①②に関しては、四日市市との公私協力型方

四日市大学COC事業キックオフイベント

『産業と環境の調和をめざす 四日市における 人材育成と大学改革』

四日市市に拠点を置く大学として、「産業振興」「環境教育・環境保全」「人材育成」を通じて、活力ある地域づくりの実現を目指します。この度、COC事業の採択記念イベントの第一弾としてキックオフイベントを開催します。

開催日時 平成27年1月10日(土) 13:30~16:00

会場 四日市大学3号館
入場料無料・事前申込不要・駐車場完備

プログラム ●KUNI-KENの演奏
●本学のCOC事業紹介
●学生と教員のシンポジウム
「四日市大学と地域」

お問合せ：四日市大学社会連携センター
(TEL：059-340-1927)

式による開学の経緯からも、これまでの実績からも、まさに本学にぴったりのと言えるでしょう。

今回の申請に当たっては、本学が地域に果たすべき役割について、四日市市や三重県の担当者や突っ込んだ協議を行いました。「産業と環境の調和をめざす四日市における人材育成と大学改革」という、本学のCOC事業のテーマは、その協議の中から生まれたものであり、今後の進展が期待できます。

しかし私は、本学にとって重要なのは、③④ではないかと考えています。大学が「高等『教育』機関」とであるという観点から振り返った時、「公私協力型大学」としての本学のメリットを、どのように学生教育に生かしてきたいでしょうか。いろいろなことが取組まれてはいますが、個々の教員の奮闘に委ねられており、学内でどんな活動が行われているのか見えにくく、大学全体でバックアップする体制も十分ではありませんでした。また、本学の教育が学生に対して与えた効果の検証も十分とはいえません。今回のCOC事業は、これらの弱点を克服する契機となるように思います。

そもそも地域連携とは、大学にとってどのような意味を持つのでしょうか。地域社会の一員として、大学が地域の活性化に寄与するのは当然ですが、大学経営にとって最も重要な、高校生の入学確保にはあまり役に立たないという意見



をよく聞きます。果たしてそのようなのでしょうか。

地域連携というと、地域のために大学が一方的に貢献するものと考えがちです。しかし決してそうではありません。平成25年4月に設置された

社会連携センターでは、本学の地域連携は「地域に貢献すると同時に、地域に育てられる」という「双方向性」であることを明確にしました。書物から学ぶことはもちろん重要ですが、実体験が乏しいまま大きくなった学生たちにとって、地域は学びを深め、人間的な豊かさを育くむフィールドなのです。地域の人々は、次世代を担う学生のために、これまでも快くフィールドを提供していただいています。身近なところにこんな豊かな教育環境を持つ大学は、それほど多くはないと思います。

今必要なのは、「地域連携と教育との結合」と「大学教育と学生の成長との相関関係の『見える化』」です。地域とつながった四日市大学での学修によつて、4年間に学生がこれだけ成長した。そんなことがわかる物差しができれば、学生も教員もやりがいがあるし、高校生や保護者はそんな大学に入り(らせ)たいと思うのではないのでしょうか。これが、今回のCOC事業最大の目玉、本学オリジナルの「成長スケール」の作成です。

これらを実現するには、社会連携センターだけでなく、教務部そして大学全体が、有機的に連携して取組まなければなりません。それが「ガバナンス改革」なのだと思います。地域連携は、地域のためであつて地域のためではない。まさにわが四日市大学の発展のためであると、私は確信しています。



活躍する後輩(クラブ活動)

四日市大学で活躍する課外活動には体育系・文化系合わせて27の公認クラブがあります。その中でも特に輝かしい成績を収めた「サッカー部」と「ソフトテニス部」を紹介します。

今年度から団体・個人に限らず課外活動において特に優秀な成績を収めたクラブに、「課外活動報奨金」が授与されることになり、このたび前学期分の表彰式が10月7日に行われました。

●サッカー部

三重県学生サッカー選手権 優勝
(9連覇)

●ソフトテニス部

第21回全日本シングルスソフトテニス選手権大会出場
(三重県代表)



岩崎副学長から表彰を受けるサッカー部代表 久保山 太陽君(中央)



同じく表彰を受けるソフトテニス部 宮城 廉君(中央)

自然豊かなキャンパスに 展開するスポーツ施設

四日市大学キャンパスには、天然芝の第1グラウンドやドーム式体育館と武道館を南西に、北側には野球グラウンドを設置、テニスコートは体育館の南側にハードコート



2棟建つていて、シャワールームやお風呂で練習後の疲れを癒す選手のオアシスとなっています。



天然芝の第一グラウンド



オムニのテニスコート

四日市大学から、未来のトップアスリートが誕生することを願います。

まちのために 自分たちで出来ること

総合政策学部教授 小林 慶太郎

「ご当地グルメでまちおこしの祭典「Bリーグランプリ」」。今年も四日市とんてき協会として参加してきました。

Bリーグランプリの主催者は「ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会」。いささか長いので、通常は「愛Bリーグ」という通称で呼ばれることも多いのですが、この組織、その名前をよく見ていただければお分かりいただけるように、単なるグルメの団体ではなく、ご当地グルメで「まちおこし」をしている団体の連絡協議会。したがって、その主催しているBリーグランプリも、しばしば単なるグルメイベントと誤解されてしまうのですが、実は「まちおこし」のためのイベントです。



老若男女みんなで一丸となつて

私が代表理事を務めている一般社団法人四日市とんてき協会も、四日市とんてきというご当地グルメを使って、まちおこしをしていくことを目指している団体。他の地域でご当地グルメを活かしてまちおこしをしている団体と共に、愛Bリーグの一員として、Bリーグランプリの主催者の一端を担っている存在でもあるわけです。なお、この愛B、BのBの文字についてですが、四日市とんてきは結構いい値段するのにB級グルメと言えるのか、などと言った声もいただきますが、実はB級という意味ではありません。地域の誇り、ブランドの頭文字のBなのです。

さて、今年も福島県郡山市で開かれたこのBリーグランプリに、今年も本学部の学生が、四日市とんてき協会のメンバーとして参加してくれました。なぜ四日市でまちおこし活動が必要なのか、四日市にはどのような魅力があるのか、四日市とんてきはどのような料理か、Bリーグランプリとはどのようなイベントか、などについて事前に座学で学んだ13名の学生たち。それなりのイメージを持って参加してくれたとは思いますが、百聞は一見に如かず、実際にイベントに参加してみてもいろいろな驚きがあり、多くの刺激を受け、そして様々なことに気づき、学ぶことができたのではないかと思います。



提供開始!

残念ながら今年は、2年連続の入賞は逃してしまいましたが、「色々な年齢の方がいたがメンバー全員が一丸となつて出来てよかった」「たくさんの方が関わって成り立っている」ということに気付くことができた「四日市はまだまだ公害の街というイメージが強いんだなと思った」「他

◆◆◆ 四日市大学 平成27年度入試概要 ◆◆◆

募集学部

経済学部	経済経営学科
環境情報学部	環境情報学科
総合政策学部	総合政策学科

入試日程

推薦入試日

A日程	11月 1日(土)	一般推薦、自己推薦
	11月 2日(日)	
B日程	12月 7日(日)	一般推薦、自己推薦

学力入試日

A日程	1月28日(水)・1月29日(木)
B日程	2月20日(金)
C日程	3月 6日(金)

大学入試センター試験利用入試

I 期日程	出願期間：1月 5日(月)～2月 2日(月)
II 期日程	出願期間：2月 4日(水)～2月20日(金)
III 期日程	出願期間：2月23日(月)～3月 6日(金)
IV 期日程	出願期間：3月 9日(月)～3月24日(火)

AO入試(随時型)

出願期間：平成27年3月24日(火)まで随時

入学試験特待生について

- 一般推薦、学力および大学入試センター試験利用入試で特待生(I種またはII種)を採用します。
- 採用された場合は、授業料等(授業料・教育充実費・教学費)の50%(I種)または30%(II種)を原則4年間減免します。

学 部	奨学金減免額(年額)		特待生定員
	I種	II種	
経 済	435,000円	261,000円	30名以内 (I種、II種 合わせて)
環境情報	482,500円	289,500円	
総合政策	482,500円	289,500円	

※詳細につきましては、平成27年度入学試験要項でご確認下さい。

特別経済支援「人間たれ奨学金」を設立

建学の精神『人間たれ』の基本理念を汲み、経済的事情で大学進学が困難である方への修学支援を積極的に行うことを目的に設立しました。採用された場合、初年度入学金全額免除、原則4年間授業料50%減免します。対象入試は、一般推薦A日程、学力A日程、センター利用I期です。

※詳細につきましては、平成27年度入学試験要項でご確認下さい。

資料請求・お問い合わせ

四日市大学 入試広報室

〒512-8512 四日市市萱生町1200

TEL：059-365-6711

E-mail：nyushi@yokkaichi-u.ac.jp



<http://www.facebook.com/YokkaichiU>

※様々な情報を発信しています。同窓生のみならずぜひご参加ください。

津波の仕組みを教える石巻西高生徒



防災士の資格を目指して

「地域防災集中講義」

の団体と、昨日の敵は今日の友。な感じで終わることができたのが気持ちよかった」
「お客さんに、十分に四日市の魅力を伝えきれなかった」などといった学生たちのコメントからも、その充実感が伝わってきます。往復ともに夜行バスというハードスケジュールでしたが、その疲れを上回る収穫があったのではないのでしょうか。

学生たちの中には、卒業後、四日市を去る者もいると思います。しかし、たとえどこで暮らすことになっても、こうした経験を通じて得た学びを活かして、自分の暮らすまちを愛し、そのまちのために自分の出来ることを考えていけるような大人として雄飛して行ってくれるのではないかと思います。これからも、まちのために自分たちで出来ることを、力を合わせてやっていきたいと思います！



東日本大震災の惨状をみると、この地域で予想される南海トラフ巨大地震が心配になります。四日市大学では、学生が中心となって東北の支援活動をしており、その延長線上で、四日市大学と四日市市の共催により、8月3日～6日に、三重県内の高校生・大学生48名を対象に、地域防災を学ぶ集中講義を開講しました。学生が中心となつて支援を継続している宮城県からは、石巻西高等学校の生徒13名を招待し、ともに防災士を目指しました。

講義の中では、防災カレンダーを作るワークショップ、避難所運営の図上訓練、実際に大学を避難所と想定した宿泊訓練、救命講習など、地域防災について実践的に学びました。炊出し、災害ボランティアセンター運営などは、地域の自主防災組織や四日市市社会福祉協議会などにも協力をいただきました。また、自衛隊からは、宿泊用の毛布の提供を受け、図上訓練においてアドバイスを受けました。市役所危機管理室職員には、防災計画、ハザードマップ、耐震補強など、災害に備える準備について学びました。

講座の最終日には防災士の資格試験にチャレンジし、多くの合格者を出しました。次に発生する大規模災害においては、彼ら彼女らが、自分や家族の命を守り、勇気をもって地域の復興に貢献してくれると思います。

四日市大学・四日市看護医療大学合同大学祭 「よんよん祭」



東京03お笑いライブ



茶道部の茶席

10月25日と26日の2日間にわたり両大学の学生が協力して創り上げる合同大学祭「よんよん祭」が開催されました。

今回で6年目を迎えました。今年は「絆―三年後の私たち」をテーマに掲げ、学生による多彩な催し物が行なわれました。

大学祭期間中は、昨年のような強風もなく、大変好天に恵まれたお祭り日和でした。

学生手作りの模擬店は、中庭を中心に18店舗が出店しました。



茶道部による毎年好評のお茶席では、和服に身を包んだ学生たちが、おいしい抹茶と和菓子のセットを提供していました。毎年来店される常連客の方も多く、おいしい栗さんとうんに舌鼓を打っていました。

総合政策学部的小林 岩崎ゼミは、今や全国の顔となった四日市のトンテキの店を出店。トンテキ焼きそばも加え、行列ができるほどでした。

留学生のお店も毎年好評ですが、今年は肉団子とベトナムスー

プを提供しました。

とろみのあるベトナムスープは熱々でした。

スタジオでは、トリックアートの展示やこれも毎年恒例のアマチュアバンド

によるライブ演奏が行なわれ、中庭メインステージでは、ダンスやカラオケ大会にコスプレコンテスト、じゃんけん大会やくじ引きなどが行なわれました。

三号館で行なわれた今年のゲストによるアトラクションは、FM三重で放送中のスクール・ナインマンデーのパーソナリティ、キングオブコント2009の優勝者である東京03による公開録音とお笑いライブでした。

会場一杯の観客を前に、東京03メンバーの絶妙なトークが繰り広げられました。メンバーの皆さんには、終了後に模擬店にも立ち寄っていただきました。

この他に、学生食堂では伊勢型紙愛好会、漫画イラスト部などの作品展示、輪投げや、つりゲームが楽しめる「ちびっこよんよん祭」が行なわれ、中庭では車の展示、福祉の店、こにゅうどうくんなどゆるキャラも登場した三重県による交通安全キャンペーンなども行なわれました。



両大学学生によるほぼ唯一の合同行事である「よんよん祭」は、後片付けもきつちりと行なわれ、今年も気持ちよく無事に終了しました。



こにゅうくん登場

四日市市と協定 「四日市公害と環境未来館」 連携協定を締結

四日市大学と四日市市は、「四日市公害と環境未来館」の活用に関する連携協定を締結しました。この協定は、平成27年3月に開館する公害資料館「四日市公害と環境未来館」の運営を支援することを約束するもので、四日市市は、名古屋大学大学院環境学研究科、三重大学、鈴鹿工業高等専門学校とともに協定を締結しました。10月28日（火）に市役所で調印式が行われ、田中市長、宗村学長が協定書に署名しました。田中市長からは「公害から環境を改善したプロセスを含めて情報発信していきたい。」と話されました。資料館は、市立博物館に併設し、四日市公害の歴史を紹介する展示や学習スペースが設けられます。

今後は、展示資料の提供、講師や学生ボランティアの派遣、研究情報の相互利用などの活用を図る予定です。



協定書に署名する宗村学長

懐かしの先生は、今

「少しずつですが、
進化と深化しています」

経済学部経済学科准教授

鶴田 利恵

四日市大学に赴任してから、16年になります。

本学に赴任する前は静岡の短大で勤務しており、女子学生ばかりのゆとりとした静岡ことばに囲まれた日々でしたが、男子学生が多い、少し関西なまりの入った三重ことばにあふれた生活に一変して、静岡と三重はさほど距離が離れているわけでもないのに、こんなにも文化が違うのかと驚いたことを覚えています。

本学に赴任して一番体力を使ったのは、「マクロ経済理論」の講義です。受講生が多かったため食堂前の本学で最も収容人数が多い311教室で、しかも週2回というハードな講義でした。当時はまだ私にパワーポイントを使いこなす技術がなかったため、広い「舞台」(教



壇」と呼ぶには広すぎますよね)の上を歩き周りながら、二つの黒板の両面に書いては消し、書いては消しの作業を何度も繰り返しました。

今でも、この「マクロ経済学」の他に「国際経済学」を担当しています。来年度からは「国際経済事情」という新しい科目も担当することになりました。

「国際経済学」では、経済理論を中心に講義をしていましたが、新しい「国際経済事情」では、「事情」という名前の通り、より時事的な話題を取り上げて話をする機会が多くなるとしています。

日々の情報収集が講義の善し悪しを決めることになるとしていますので、気を引き締めてやっていこうと思っています。

ゼミでは、近年ちよつと変わったことをやり始めました。それは、地域に出て、そこにある問題点を取り上げ、その解決策を学生が学生らしい視点で探る、というものです。現在はもっぱら四日市商店街にお邪魔しています。留学生もいるため、文化の違いを感じながらも新鮮なアイデアが出ることもあり、私自身とても楽しんで活動をしています。今年の11月1、2日も「こども四日市」という催しに参加しました。来年度以降もこの催しには参加する予定ですので、卒業生の皆さんも顔を出して下さい。お子さんがいる方は一緒に連れてくると楽しめますよ。

しばらく行っていないかったゼミ合宿も、5年ほど前から復活させ、沖繩、横浜、静岡、奈良、神戸と飛び回っています。例年、9月の第2土曜日あたりで実

施しています。卒業生の参加も大歓迎ですので、希望者は是非ご連絡下さい!!

研究面では、相変わらず南米のブラジルやアルゼンチン等で形成されているMERCOSUR(メルコスール/南米南部共同市場)の経済について分析しています。ただ、これまでは主に貿易や、域外との自由貿易協定の進展をみてきたのですが、近年はMERCOSURへの直接投資がどのような形態になつており、それが同地域の貿易や経済成長に如何なる影響を与えているのかといった研究も進めています。

また、MERCOSUR以外には、日本も関連するTPP問題にも興味があり、今年7月には三重県が主催する「みえアカデミックセミナー」で、同テーマを取り上げて講演させていただきました。地域統合や自由貿易協定・経済連携協定といった国と国、あるいは地域間での経済連携は、WTO(世界貿易機関)の下でのドーハ・ラウンドが事実上中断していることもあり、リーマン・ショック後の世界同時不況を契機として大きな変化をみせています。このような状態は、国際経済が歴史的にみて一つの転換点にきていることを示唆していると思われ、研究意欲は増す一方です。卒業生の皆さんも、職場や家庭で、仕事や育児介護など、毎日忙しい日々を送っていらっしゃると思います。ありきたりですが、どうかくれぐれも体には気をつけて、常にポジティブな気持ちを持ち、自分のペースで少しずつ進んで下さい。

名誉教授の 称号を授与

平成26年6月4日、四日市大学名誉教授の称号授与式が行われ、西牧義江元教授、豊島政実元教授に称号記が授与されました。



西牧名誉教授は、平成5年4月経済学部准教授として就任され、平成15年4月から留学生支援室長(現留学生支援センター)を務められ、長きにわたり、留学生の学修及び生活指導など、本学の留学生教育の支援活動に携わり、その礎を築かれました。留学生の募集活動を通じて諸外国の多くの学生が本学のキャンパスに集うようになり、その多大なる功績は、誠に顕著なものでした。豊島名誉教授は、平成13年4月環境情報学部教授として就任され、ビートルズで有名なアビーロードスタジオの改修を手がけるなど、その実績が四日市大学の教授として広くマスコミにも紹介されました。平成23年には世界的な団体A.E.S.(オーディオエンジニアリングソサエティ)より、永年の功績が認められ、もつとも権威ある「フェロシッパ賞」を受賞し、本学の名声を高めました。

2020年東京オリンピックパラリンピック 東京五輪開催成功に向けて連携協定を結ぶ

四日市大学は2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック大会を盛り上げるため、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を締結しました。

この協定は、組織委員会が全都道府県にまたがる761の大学・短大と連携協定を結び、まさにオールジャパンの取り組みとなっています。



選手強化の協力、大学で五輪・パラリンピックの講義の開講、通訳などのボランティアの組織的育成などを視野に入れており、2020年が素晴らしいオリンピック・ピックイヤーとなるよう、大会発展の一翼を担ってまいります。

「環境フェアin四日市大学」開催

未来の社会をつくる子どもたちに、
環境の大切さを学んでほしい



8月9日(土)に(株)東産業が主催する「環境フェアin四日市大学」が開催されました。この催しは(株)東産業が市民参加型の環境イベントとして継続してきたもので、11年目となる今回、四日市大学と共催し、大学キャンパスで開催されました。

開催当日は台風11号による大荒れの天候で、一部、参加を見送った団体もありましたが、20を超える団体(市民団体、自治体、教育機関)にご出展ご参加いただき、また約800名の親子連れの来場者がありました。

3号館では朝明中学校や山中中学校の吹奏楽部の演奏、サナ保育園の和太鼓演奏、ゴミ0レンジャーの活動などが行われ、降りしきる雨の中、大変盛り上がりしました。2号館と4号館では環境関連のブースが立ち並び、クイズ、体験イベント、パネル等で来場者を楽しませてくれました。見事な昆虫の標本、地域の貴重な動植物の写真集などもあり、各団体が環境問題の改善のために続けている地道な活動の様子が伝わってきました。

四日市大学は、切り紙細工、顕微鏡体験、水質分析、学生制作のゲーム、電子工作、環境関連のパネル展示、「貝から伊勢湾を考える」映像作品、貝合わせ(昔の神経衰弱ゲーム)などを出展しました。

「未来の社会をつくる子どもたちに、環境の大切さを楽しみながら学んでほしい。」そんな想いから、四日市大学はこれからも環境フェアを応援していきます。



『JAXA共同事業』宇宙をテーマに 科学の楽しさに触れる 「JAXAコスミックカレッジin四日市」開催

JAXA講師の元で説明を聞きながら…



7月26日(土)に「JAXAコスミックカレッジin四日市」が四日市大学で開催されました。これは「四日市子ども科学セミナー」の行う企画の一つで、四日市市教育委員会が主催し、大学が後援しました。この企画では、ペットボトルロケット(水ロケット)の制作を通じてロケットの仕組みやJAXAの活動を子どもたちに理解してもらうことを目的としています。

50名の定員に対して180名程の応募があり、抽選で選ばれた親子が参加しました。最初に、四日市博物館の谷岡経津子館長(元総合政策学部教授)からお話があり、続いてJAXA講師の指導で水ロケットの制作に取り掛かりました。ペットボトルを2本組み合わせて、それに翼や重り(粘土)や先端コーンや発射用ガイドを取り付けていきました。約1時間の作業で完成しました。

昼食後、大学の天然芝のグラウンドで発射競技が行われました。10基のランチャーに水ロケットをセットし、合図に合わせて発射しました。飛距離100mを超える機体も数多くあり、最長飛距離は120mでした。

参加した子どもたちは、水ロケット機体の格好良さを喜び、その飛距離に驚いていました。子どもたちに科学の楽しさを伝えるという目的は十分に達したと思われます。

また、この企画に、大学からは学生5名が参加して、会場案内、ロケットの制作の手伝い、発射の運営を行うなどのボランティア活動も行われました。



子どもたちは一生懸命にロケットを作りま



学生スタッフが手伝って、ロケットをランチャーに取り付けました。



発射の瞬間。



最長飛距離20mを記録した子どもに表彰状が贈られました。

生涯教育 四日市大学 コミュニティカレッジ

コミュニティカレッジは、地域社会への貢献として、四日市大学の設備や人的資源を活用する目的で開講しています。大学だからこそ供給できる教育・研究資源を、学部学生に対する教育や学部内での研究のみに活用するのではなく、地域住民、地元企業や地方公共団体などで働く人びとに積極的に開放しています。

具体的には、年間5クール(4-5月期・6-7月期・9-10月期・11-12月期・2-3月期)6コマを基本に、パソコン・英会話・フラワーアレンジメント・絵画・社交ダンス等、様々な講座を開講して、地域住民皆様の多岐にわたる生涯学習のニーズにお応えいたしております。

体験受講の制度も設けておりますので、興味だけでしたらば、お気軽にお問い合わせください。また、パンフレットを作成しております。ご利用の方はご連絡ください。



お問い合わせ

コミュニティカレッジ事務局
TEL: 059-365-6615

ホームページへのアクセスはこちら

<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/caeb/>

同窓会掲示板

第9回 同窓会ゴルフコンペ

今回9回目となりました同窓会ゴルフコンペは11月9日、伊勢中川カントリークラブで行いました。午前中は小雨の中でのラウンドでしたが、午後には雨も上がって楽しいラウンドができました。

参加者はそれぞれゴルフの腕前を競いつつ、ビジネスやプライベートの話しで盛り上がっている様子でした。

プレー終了後には、表彰式が行われ、かくも盛大に終了することができました。

結果は、NET67と見事な成績で坂田 満(経済学部2期生)さんが優勝し、優勝トロフィーと賞品が授与されました。

なお、優勝した坂田さんは、次回第10回ゴルフコンペの幹事を担当していただくことになります。

皆さん、次回のゴルフコンペには是非、ご参加ください。

優 勝	坂田 満	GROSS 102	HDCP 35	NET 67
準優勝	佐藤 信行	GROSS 85	HDCP 13	NET 72
3 位	志賀 昭太	GROSS 93	HDCP 18	NET 75



名簿作成の 不審電話・ダイレクトメールにご注意

最近、四日市大学や同窓会事務局の名前を騙って、住所や連絡先(電話番号)、お勤め先を聞きだす電話やダイレクトメールが増えています。

これは、大学および同窓会事務局とはまったく関係がありませんので、くれぐれもご注意ください。なお、住所が変更になったときは、同窓会事務局までお知らせください。

編集後記

皆さん、こんにちは！お待ちかねの第20号の完成です。この会報を発行するにあたり、諸先生方ならびに卒業生の皆様方の多大なるご協力を得て無事に発刊に至ることができました。紙面を借りて心から厚くお礼申し上げます。

四半世紀の歴史を感じながら「創刊号(1993.3)」に改めて目を通してみると、そこには開学間もないピカピカのフレッシュな母校の姿が紹介されています。

「クラブハウス完成」、「グラウンドに桜の植樹」、「帰国子女初めての入学」、「推薦入試に5,900人受験」、「学生課、下宿探しに躍起」などなど、本誌でも紹介しました名誉教授の西牧義江先生は、その年新しく新任の先生として紹介されていたり…。

20年間守り続けてきた「去っても日々親し」をモットーに会報のあり方を改めて考えた今回の発行です。今年から新たな気持ちで、そして大切な節目として、来年もまた皆さんに母校の情報や会員の消息を発信したいと思います。

乞うご期待！

同窓生便り

皆様こんにちは。

四日市大学総合政策学部1期生の黒田真史です。

大学を卒業して、早いもので10年が過ぎようとしております。

今は、四日市にある株式会社第一観光という旅行会社にて営業マンとして働いております。業務内容としては、新規企業の獲得、お客様のニーズに沿ったコースの企画、手配、添乗業務を行っております。



日々業務に追われておりますが、大変充実した日々を過ごしております。地元企業に就職したいと希望しておりました私に親身になって相談に乗って頂き、現在に至ることが出来たのも、ゼミの先生や就職課の皆様を始め大学関係者の皆様のおかげと、深く感謝いたしております。

地域に根ざした企業で有る事を経営方針にしております弊社では、近年話題となっております、工場夜景を海上よりご覧頂きます四日市コンビナート夜景クルーズの企画、運営を致しております。今年には乗船人数1万人を達成し、北は北海道南は九州より乗船頂いております。

このように、沢山の方に四日市をご覧頂き、お越し頂けますことは大変幸せな事で、今後ももっと沢山の方にお越し頂けます様に、魅力ある観光資源を発掘し、傲る事無く、お客様第一主義、地域に根ざした営業活動をモットーに精進してまいります。

皆様におかれましても、もしご旅行の機会がございましたら是非一度ご相談頂きますようお願い致します。

黒田 真史(総合政策学部1期生)

株式会社第一観光 団体旅行部

☎059-347-5488

(営業時間 10時～19時 土日祝日は定休日)

平成26年度 同窓会総会のお知らせ

平成26年度の総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますよう、ご案内申し上げます。当日は総会終了後、学生食堂で昼食会を予定しています。是非、この機会に来学され、学生時代に戻って懐かしい味をご堪能ください。多数のご出席をお待ちしております。

日 時：平成27年1月31日(土) 11時から

場 所：四日市大学(学生食堂)

昼食会：総会終了後、無料の昼食会を催します。

※ご出欠の有無を同封の返信用はがきに記入のうえ、平成27年1月16日(金)までにご返信ください。

原稿募集

皆様の会報への参加企画として、サークルやゼミなどの「同窓会のお知らせ」や「結婚しました!」「お店をしているので是非きてください。」など近況

の原稿を募集しております。

また、ご意見やご希望などございましたらお寄せください。

